

# 博覧会から博物館都市へ

## —信州松本を例に—

中 江 桂 子

エキシビションとツーリズム研究班 委嘱研究員  
明治大学 文学部 教授

博覧会や博物館が地域自治体の文化にあてるものについて考えるために、重要な事例として、長野県、特に松本市を論じたい。長野県は全国の都道府県別の比較では登録博物館数がつねに全国1位である。これは、地域と博物館が他にはない歴史的つながりを持つ地域であることの証左である。ここでは明治以降の歴史を振り返りその意味を考えたい。

明治6年開催の松本博覧会は地域の人々にとって意味のある地域の経験であった。明治5年からはじまる松本城の払い下げと取り壊しは、地元にとって大きな苦痛だったが、なんとか天守閣だけは守ろうと市川量造らが活動を開始した。その方法は、松本博覧会の開催だった。維新前後の国際万国博覧会における幕府御用掛の田中芳男が飯田出身であったこともあり、博覧会開催へのノウハウもあった。市川は博覧会の建言書のなかで、近代博物館の思想をふまえたうえで、松本城を城郭ではなく「博覧会から博覧館へ」という構想を明記している。市川らの市民活動は、松本城の博覧会期間を含む10年の借り受けをして松本博覧会を開催したが、二代広重が錦絵にするほど松本博覧会は盛況をきわめ、その収益で結局買い戻すことに成功する。こうして松本城保存に成功する。さらにこれに気を良くした筑摩県令は、筑摩県各地で博覧会を奨励した。明治7年から9年まで、筑摩県が廃止され長野県になるまでの数年、松本城では毎年、筑摩県内の広い地域で、荒れかけた神社仏閣の敷地を活用し、博覧会が開催され続けた。「文化財は市民が守る精神」のはじまりである。

しかし博覧会博物館と地域活動との結びつきは、筑摩県廃止以降は下火になる。これが再興されるのは日露戦争前後である。日露戦争に出征した松本出身の軍人が出征先で集めた彼の地の草花標本、紙幣、写真、戦利品などが小学校に寄贈され、相当数の資料となった。当時の校長であった三村寿八郎はそれらの資料を『明治三十七、八年戦役資料館』として広く公開した。ここには、松本の人びとによって軍事関係資料1300点・博物標本2100点、風俗資料300点、など、戦争体験だけではない幅広い資料が収集された。のちにこれが郷土資料館『松本記念館』になる。松本の人々にとっての歴史の形見のみならず、他の歴史資料にも貴重なものがある。地域の足跡とそこに育てられる誇りを、地域の人びと自身が発展させていくという文化が醸成されたと言ってよいだろう。松本記念館はその後、自然系の資料も増やしていく。とくに、高

山植物研究の第一人者であり信濃山岳会や信濃植物学会などから支援を受けた河野齡蔵は、記念館に山岳室を設け、みずから収集した標本類や専門書籍をここに寄贈し、松本市内にロックガーデンを設置する活動を通して、山の文化と松本市民を結ぶ役割を果たした。総合博物館が地域の人々とともに育てられたと言えよう。

その他、戦後の復興と白樺派の教育者たちと民藝運動のつながりを挙げておかなければならない。白樺派の影響を受けた学校教員たちは、新しい時代を迎えるにあたり、白樺派を中心とする中央の文化人を松本に招き、「話を聞く会」活動を行っている。現在では胡桃沢勘内コレクションとして松本博物館に残されている資料をみると、この会を中心に広がる人間のネットワークが、教育分野、地元産業の復興、その結果として松本の戦後文化の発展にも寄与したことがわかる。手仕事と産業復興をドッキングさせて成功した池田三四郎の松本民芸家具、小林一三夢による花いっぱい運動、などがある。

現在の松本は「三都」学都・岳都・楽都のアイデンティティを、市のスローガンに掲げ、博物館活動や観光行政に利用している。学都（深志神社・旧開智学校・旧松本中学）岳都（山岳の文化の地・エコミュージアム）楽都（鈴木メソッドの地・小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラ）は、それぞれ、この松本にゆかりある文化をあらわし、現在に引き継がれているものである。松本は「美ヶ原から槍ヶ岳まで 松本は屋根のない博物館」すなわち、松本まるごと博物館構想を掲げている。建物ではなく、市域平面を博物館空間として構想する試みであり、市民の歴史と活動が現在進行形で進められている。その現在の在り方も、報告した。

# 博覧会から博物館都市へ —信州松本を例に—

関西大学経済・政治研究所  
エキシビションとツーリズム研究班  
委嘱研究員 明治大学 中江桂子

## 博物館が多い県 —長野県の特徴—

### 都道府県別 博物館数（登録博物館・博物館相当施設・博物館類似施設）

<2018年度統計>

- 1. 長野県 345 (75+8+262) ← 人口あたりに換算すると、断トツ1位
- 2. 北海道 331 (44+20+267)
- 3. 東京都 312 (57+46+209)
- ：
- ：
- ：
- 18?.. 大阪府 108 (24+13+71)
- 人口あたりに換算するとワースト1！

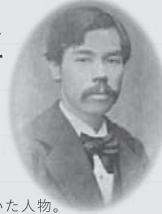


# 1. 松本博覧会のこと

## 【明治六年の松本博覧会・前史】

キーマン1 田中芳男（飯田出身）

パリ万博1867以降の国際博覧会における幕府御用掛博覧会と近代化と文化財保存のありようを、ヨーロッパで見聞していた人物。（長野県からの出品も多かった→博覧会の空気を県民も感じていたかも・・・）



松本藩における廃仏毀釈政策の徹底

明治5年初頭からの松本城の建物と城郭の、払い下げ、取り壊しが始まる

上下資料は、『ウィーン展 松本城を救った  
ウィーン万博・ハブスブルグの皇帝たち』より

キーマン2 市川量造（下横田町副戸長、信飛新聞創設者、当時28才）

既に落札された天守だったが、（天守は）「顔ル社構ナルモノニテ且其地高敞遠望快潤人意ヲ開拓スヘクノ所」なので「博覧会ニ用イルハ尤適當」とし「衆庶親遊ノ地トナシ龍動キリシタルパレス納也納ミユゼム等」のように博覧会開催に支障はない、とする建書。（明治5年）

10年の天守借り受けで博覧会を実現、しかし、博覧会の収益で買い戻しに成功する。博覧会から「博覧館」を、という志が、建言書に明記。



## 【第一回 松本博覧会 およびその後の筑摩県博覧会】

松本博覧会（明治6（1873）年11月10日から12月24まで）

- ・ 出品 東京府博覧会事務局から借用した埃国博覧会図のほか、書画工芸、蝦夷地の弓矢、麦藁細工額、薩摩雛、和蘭古代女衣裳、西洋犬・・・

- ・ 「和製舶来総物品ヲ羅列シテ・・・」

- ・ 仮説の動植物園、軽業会、書画工芸品の即売会など。

- ・ 「松本博覧会規則」にみる理念

⇒世界から珍しい品々や古いもの・新しいものを博覧することにより  
“新しい時代に備えるための<智見>を開く”という目的が謳われている。

殖産興業・産業振興・技術習得等という言葉が一切ない。

啓蒙的段階/地域と文化の新興のための博覧会としての最初。

⇨同時期の大阪・京都などの博覧会との違い

- ・ 毎日、4~5000人を下らない来場者 ⇒推計で20万人くらいか

大成功：永山盛輝権令 ⇒博覧会を気に入ってしまい、県下博覧会の奨励



### 【筑摩県博覧会】

#### 各地で開かれた博覧会

↓  
 ほぼ松本博覧会を踏襲したもの

- ・地域の文化財保存
- ・他の新旧文化との遭遇
- ・興行や出店
- ・附博覧会

「鬱結ヲ解キ其神氣ヲ伸ヘシメ・・・」  
 詩歌書画など作って売ってもいいよ  
 演劇・競馬・撃球・・・

- ・博覧会場はほぼお寺

旧藩主は、廃仏毀釈を進めつつ、寺の跡地は荒れないよう  
 学校が博覧会の場所とするように勧めたことも、背景にある。

⇒常設博物館誕生には至らず。  
 (博覧会から博覧館への素地)

⇒生活のなかの文化体験  
 ⇒文化財は市民が守る精神の始まり

右の資料は『ウィーン展 松本城を救ったウィーン万博・ハプスブルグの皇帝たち』92頁

年次	名称	開催場所	会期
明治6年	松本博覧会	松本・松本城天守及び本丸	11.10～12.24
明治7年	飯田博覧会	飯田・岩ノ社(現飯田市)	3.20～4.10
	松本博覧会	松本城天守・本丸	4.15～6.3
	高島博覧会	上諏訪・正順寺(現諏訪市)	5.17～6.5
	大町博覧会	大町・田陣屋(現大町市)	7.1～7.10
	高遠博覧会	高遠・満光寺(現伊那市)	7.20～8.13
	福島博覧会	本曾福島・興禪寺(現本曾町)	8.10～8.25
	高山博覧会	高山・高山支庁(現岐阜県高山市)	9.1～9.20
明治8年	高島博覧会	上諏訪・正順寺	3.1～3.20
	松本博覧会	松本・松本城天守及び本丸	4.1～4.30
	飯田博覧会	飯田・善高寺	4.20～5.10
	高遠博覧会	高遠・満光寺	4.30～5.15
	神宝博覧会	松本・深志神社	8.1～8.10
	古川博覧会	古川・本光寺(現岐阜県飛騨市)	8.1～8.15
	一日市場博覧会	明盛・一日市場(現安曇野市)	9.17～9.26
	飯田博覧会	飯田・善高寺	9.21～10.6
	福島博覧会	本曾福島・興禪寺	9.25～10.9
	下諏訪博覧会	下諏訪・東遊寺(現下諏訪町)	9.28～10.12
	松本博覧会	松本・松本城天守及び本丸	11.5～12.5
明治9年	高島博覧会	上諏訪・正順寺	4.11～4.30
	飯田博覧会	飯田・善高寺	4.25～5.15
	一日市場博覧会	明盛・一日市場	4.25～5.15
	高遠博覧会	高遠・満光寺	4.29～5.7
	赤穂博覧会	赤穂・安楽寺(現長野県根市)	5.5～5.20
	高山町小博覧会	高山・郷社権山神社	5.5～5.20
	松本博覧会	松本・松本城天守及び本丸	5.15～5.15

## 2. 文化の記憶・歴史の記憶 ・私たちの記憶を生きる

### 【軍都松本の記憶】

軍隊衛戍地の誘致合戦 明治21年 長野・連隊区司令部設置  
 ⇒松本は、なかなか成功しなかった。

- ・第五十連隊(1700人超)が松本へ＝大歓迎  
 戦死者の記憶も、集的に蓄積される
- ・日露戦争へ松本町からの出征400人  
 ⇒松本小学校の卒業生

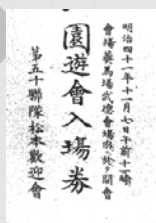


図26 松本駐「(松本名勝) 歩兵第五十聯隊正門」



合葬の様子

出征兵士からの寄贈品が小学校に集まる  
 小学校の一室に「時局室」をつくり、展示。  
 広く公開した。

## 【軍都松本の記憶—松本記念館の誕生】

### 『時局室』

出征軍人が勤務の余暇に集めた、彼地の草花、標本、紙幣、写真、戦利品などが、書状とともに小学校に届く。



### 『明治三十七、八年戦役記念館』

- ・ 出征兵士の帰郷とともに資料の寄贈は増加。記念館を竣工し、校長三村寿八郎が命名。明治39年（開智学校に隣接する土地）
- ・ 収蔵品（記念館発足時）

記念館唱歌 ↓



軍事関係資料1308点／風俗関係資料315点  
／博物標本2091点／雑資料73点、など。  
うち半数ほど展示。

⇒ 郷土博物館『松本記念館』へ

澤柳政太郎（開智学校出身・成城学園創立者）  
「松本ニ遊ブ者ノ必ス訪フ所トナリ松本ニ記念館アリトノ事  
廣ク知ラルルニ至レリ」



植物標本 ↓



三村寿八郎



## 【ロックガーデンと山岳会—河野齡蔵の仕事】

松本記念館 二の丸（松本中学校跡地）への移転を機に  
自然科学系資料が加わる⇒総合博物館へ

※山岳信仰の伝統×ウォルター・ウェストンを受け継ぐ  
河野齡蔵（日本近代登山の父）

- ・ 高山植物研究の第一人者
- ・ 記念館に「山岳室」を設置  
⇒ 自分の収集した標本類・専門書類を寄贈  
⇒ ロックガーデンの築園

信濃山岳会・信濃植物学会などが  
齡蔵を支援  
（博物館学芸員と外部の研究者との連携がすでに存在した）  
山々と町を知識で結ぶ

左：松本県ヶ丘高校のロックガーデン  
右：太鼓門南側ロックガーデン

写真は、『博物館100年モノ語り』松本市立博物館所収



## 【信濃の教育界と白樺派】

白樺派の人々を、信濃教育会の人々が招き、知的刺激を交換するという事例が、第二次世界大戦以前には多く見られた。

→「白樺派教員」 一志茂樹・赤羽王郎・小林多津衛ら

白樺派という東京のホットな学術の流行を、  
松本の地域の生活者に積極的に伝える活動をする！

代表的白樺派の人びとの入信（信州に入るという意味です！）

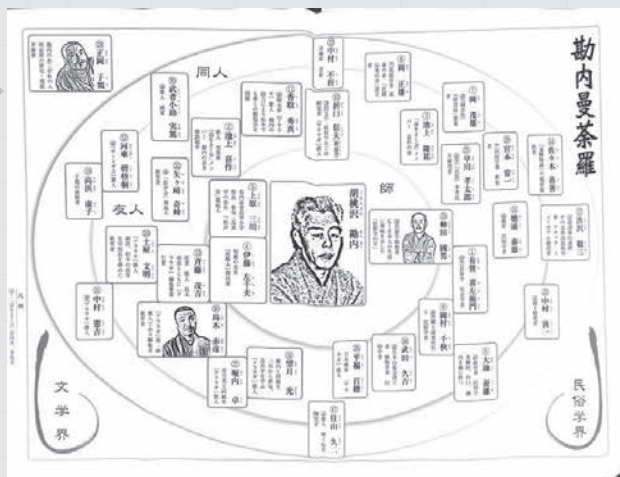
岸田劉生、武者小路実篤、柳宗悦、柳兼子、  
河井寛次郎、浜田庄司、バーナード・リーチ……

展覧会は小学校や幼稚園という場合もよくあることだった



郷土の覚醒／世界への好奇心

## 【胡桃澤勘内コレクションと「話を聞く会」】



### 胡桃澤勘内

歌人  
民俗学・郷土研究家  
松本市議会議員

& 実業家

柳田国男や折口信夫との親交  
「話を聞く会」

話し手：渋沢敬三・新村出・金田  
一京介・武者小路実篤

聞き手：赤羽王郎・上条義守・池上喜  
作など、松本地方のおおかた  
の文化人  
(実業界や公務員を含む)

(『胡桃澤コレクション』松本市博物館、17頁)



高橋勲(左)・北村正三(左二)・津田重雄(左三)・池田三郎(左四)・丸山太郎(左五)・柳澤次郎(左六)・下条寛一(左七)・池上喜作(左八)・池田三郎(左九)・丸山太郎(左十)・柳澤次郎(左十一)・下条寛一(左十二)・池上喜作(左十三)

『胡桃沢コレクション』松本市立博物館38-39頁

話を聞く会写真

## 【民藝運動のネットワーク はじまり】

昭和21年長野民藝協会支部を池上喜作

(地元の呉服店の店主・勤内の「話を聞く会」の世話人・歌人)を中心に立ち上げる。

昭和21年5月「浜田庄司陶器展」

三代澤本寿(染織家)と丸山太郎(螺鈿工芸家・和紙店店主)、下条寛一(市職員)が計画開催。  
会場：松本幼稚園

同年8月「地方文化と工芸」柳宗悦講演会

昭和22年丸山太郎が「ちきりや工芸店」を

開店。もともと和紙店、2階をギャラリー  
とし、サロンの空間をつくる。

民藝の指導者は地元の作品作り(=産業振興)の  
指導に精力を注ぐ。

※池田三四郎<<下条の誘いがあり、柳澤次郎らと。

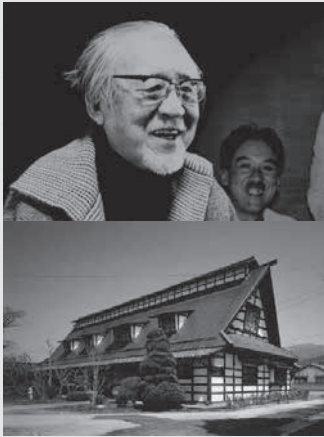
<<リーチ、濱田、河井、黒田辰秋らの指導がある。



現在のちきりや工芸店



### 3.戦後復興と文化復興



・手仕事と産業復興  
一池田三四郎と  
松本民芸家具

戦争の荒廃からの家具生産  
質の高い洋家具を日本の木材で！  
新しい近代的な生活様式であるが、  
日本人のなじみ形を模索

産業として  
成功！

例) ウィンザー・チェア  
←松本民芸生活館  
職人たちが実際に使いながら生活し、  
新しいデザインを模索する場として  
池田が考案したもの

### 【民藝運動のネットワーク 松本民藝館】



昭和37年・松本民藝館開館

世界各地の民芸の作品 丸山太郎の  
民藝コレクション展示

新しいモノづくりの参考のために



## 3.戦後復興と文化復興

### 【花いっぱい運動】

・小林一三夢と小学生とその家族からはじまる  
花いっぱい運動は、戦後まちが荒廃し人々の心にも余裕を持ってない中で、「社会を美しく・明るく・住みよくなる」、また花を通じて人々の気持ちを豊かにとの願いを込め、昭和27年4月8日、当時松本市の小学校の教員だった小松一三夢によって始められました。

### 【松本市市民憲章】

1. 松本市民はお互いの連帯感を強め、自由と自治を尊重しましょう。
2. 松本市民は、人間性をつちかう教育を重んじ、文化を大切にしましょう。
3. 松本市民は、自然を愛し、まちの緑とすんだ川をまもりましょう、。

### 【市民運動としての保存運動のひろがり】

松本城天守閣保存に成功した松本の経験



「文化財を守る市民の会」 昭和53年  
活動の成果として残されたもの

- ・馬場家住宅
- ・旧松本高等学校校舎  
(あがたの森文化会館として現在も利用)  
本館および講堂は、県宝となる
- ・松本裁判所旧庁舎  
(日本司法博物館として利用)

上：馬場家住宅 下：松本裁判所旧庁舎室内



#### 4. 松本の現在—— 学都・岳都・楽都のアイデンティティ



#### 4. 松本の現在—— 学都・岳都・楽都のアイデンティティ

##### 博物館活動の展開を支える標語

- <学都> 深志神社・崇教館と寺子屋・・・  
開智学校・旧松本中学・そして現在  
    >>>新しい博物館からの発信
- <岳都> 山岳信仰～ウォルター・ウェストン  
歴史を受け継ぎつつエコミュージアムのモデルとして
- <楽都> 松本音楽院の鈴木鎮一（鈴木メソッド）  
小澤征爾とサイトウ・キネン・オーケストラ

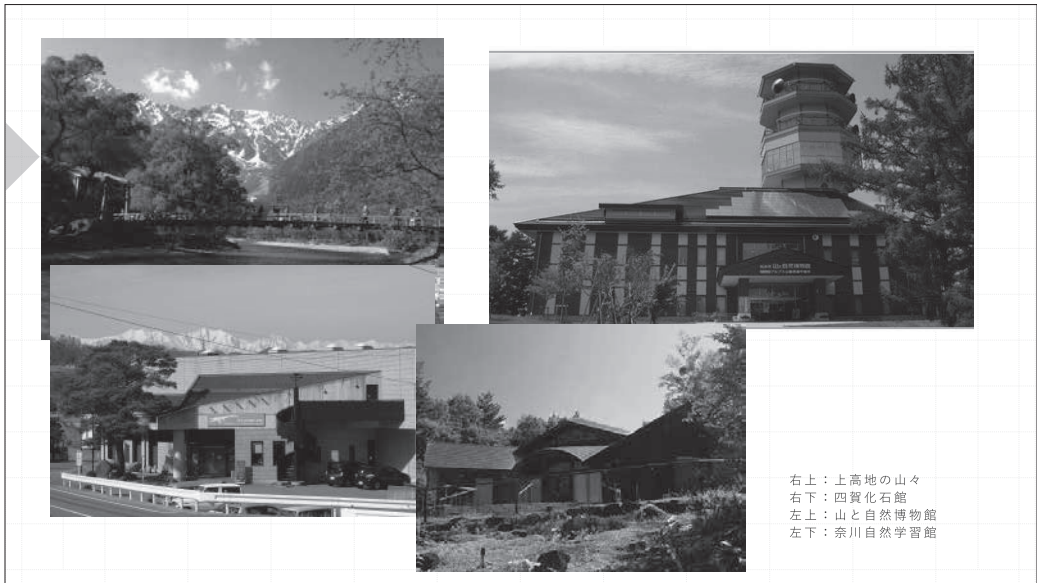


左上：国宝 開智学校  
 左下：深志神社  
 右上：松本高等学校旧校舎  
 右下：松本高等学校旧校舎  
 中：旧制高等学校記念館



サイトウキネン・オーケストラ  
 松本フェスティバル 写真はWebより

下：フェスティバルにあわせて、  
 企画される種々の市民の音楽活動



右上：上高地の山々  
 右下：四賀化石館  
 左上：山と自然博物館  
 左下：奈川自然学習館

## 5.松本は屋根のない博物館

<博物館都市松本をめざして>

【松本まるごと博物館構想】 平成12



- ・建物ではなく、市域平面を博物館空間として構想する
- ・博物館活動 → 市民の生活に浸透することで生かされる

- > 「市民学芸員講座」  
 ……「市民みんな学芸員、みんな利用者」
- > 博物館「館楽楽学」対談  
 肩の力を抜いてケンケンガクガクしゃべる会
- > 「たまり場」としての博物館
- > 調査研究の開示と市民からの理解を得る努力を  
 市民学芸員とバックヤード見学企画等

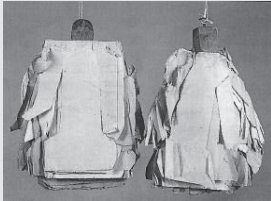
博物館・市民連携の例

## 【松本の七夕文化】

- 松本の民俗資料を通じた  
展覧会企画



- 七夕の作り方、飾り方



中上：七夕飾りの出土品（人形の頭）

左、中下：民俗資料として残されたもの

右：七夕関連の講演会などのチラシ

## 【松本の七夕文化】

- まちなかの楽しみ松本の民俗資料を  
通じた展覧会企画



▪ 幼稚園での飾り



▪ 窪田空穂旧宅の縁側で



▪ まちなか風景



▪ 前頁とこのページの写真は、『七夕人形の風物詩』松本市立博物館 より

2008 松本がよくなった緑野の「まちなか展覧会」

### 3. 松本は屋根のない博物館



新しい博物館の試み紹介

#### 【日本浮世絵美術館】

松本市街からはバスで20分くらいはかかる場所。  
松本の実業家のコレクションだが、かなりの点数がある。  
インバウンドを意識している？気がする。

#### 【松本市立美術館】

新しい博物館の試み紹介

今年2022年建て替え後オープンした博物館。  
松本出身の世界的アーティスト草間彌生を全面的に押し出す。  
草野の展示室はあるが、全体が現代アートの美術館というわけではない。



## CRAFTS FAIR MATSUMOTO 2022

- 1987年から続く松本市の代表的なイベント。inあがたの森。松本市周辺～近隣のクラフトの作り手がブースを出す。
- 今年の来場者、2日間で、30000人程度。

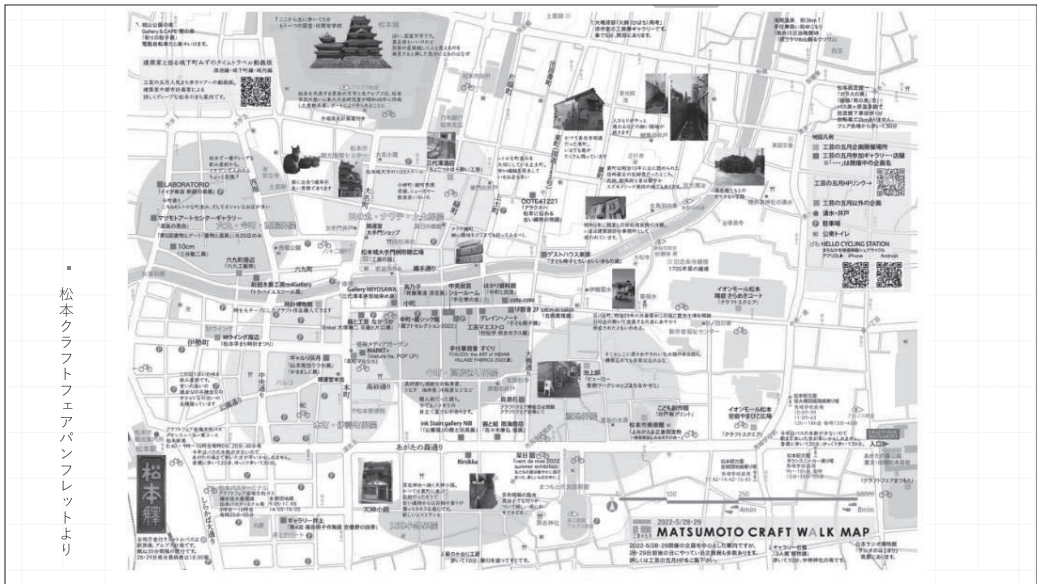
この画像は  
クラフトフェア  
Webより

38





博覧会から博物館都市へ



■ 松本クラフトフェアパンフレットより

## 松本の文化事業の考え方

- ・ 中核団体（＝多くは博物館、あるいは市民団体）。
- ・ その事業にあわせて松本市各地での自主的な参加を盛り込む。
- ・ 点ではなく「面」をどのようにつくるか。
- ・ 松本市街地と周辺地域の結びつき



→多くの博物館を、市街地内に集中させない。

不便であり、旅行者には、回遊は難しい。

→地元で車をもつ市民のため？

→旅行者には、松本市の全体を歩いてもらいたい。

→生活区域も博物館の内側ととらえる。

まるごと「博物館」

- 地域への理解へ

# ご清聴ありがとうございました！

委嘱研究員 明治大学 中江桂子